三田市民病院経営健全化基本計画書

2008年12月

はじめに

三田市民病院は、三田市のみならず周辺医療圏約30万人の皆さまに対して、救急を中心とする急性期医療を提供し、住民の健康・福祉の増進に貢献してきました。

しかし、全国的な医師・看護師不足や国の医療保険財政の悪化などを背景に、公立病院の経営環境は急速に悪化しており、三田市民病院においても、平成19年度決算で11億円を超える赤字に陥るなど大変厳しい経営状況となっています。こうした中、本市においても平成19年10月に、市直轄の「三田市民病院経営健全化推進本部会議」を設置し、医師・看護師確保対策など市民病院の経営健全化に向けた取り組みを進めつつ、同時に市民病院の抜本的な経営改革に踏み込んだ検討を行うべく、外部専門委員による「三田市民病院のあり方検討委員会」を設置いたしました。

本計画書は、同委員会の5回に渡る検討会議からの答申を踏まえ、三田市民病院運営の今後の進むべき基本的な方向性を定め、地域医療における三田市民病院の役割・方向性を確認しつつ、そのための基盤となる経営の効率化やふさわしい経営形態についてまとめたものです。

本計画書により三田市民病院が健全な経営基盤に裏付けられた良質な医療を提供し、三田市民病院の基本理念である『三田地域の中核病院として安心、納得、温かい心のこもった医療を提供し、地域住民の支えとなる病院』としてあり続けることを目指しております。

最後になりましたが、本計画の策定にあたり、貴重なご意見やご提言をいただきました三田市民病院のあり方検討委員会委員の皆さまをはじめ、市民アンケート調査等でご協力いただきました多くの市民の皆さまに心から感謝申し上げます。

平成20年12月

三田市長　竹内　英昭

目次

Ⅰ．三田市民病院の現状について　P.4～33
1．三田市民病院の概要
2．公立病院をめぐる制度環境
3．診療圏における位置づけ
4．三田市民病院に関する市民アンケート
5．経営状況

Ⅱ．三田市民病院の今後の方向性について　P.34～43
1．医療機能の方向性
2．経営効率化に向けた取り組み
3．経営形態について

Ⅲ．用語集　P.44～47

注）各ページ中の※印は、Ⅲ章で用語集の記載があることを意味している。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
1. 三田市民病院の概要

①施設の概要
住所：三田市けやき台3丁目1番地1
規模：病床数300床（HCU※10床、未熟児室3床、特室5床、個室53床）
構造：鉄筋コンクリート造　地上7階
敷地面積：58,747.86㎡
延床面積：22,928.07㎡

②基本理念
三田市民病院は、地域の中核病院として『安心、納得、温かい心のこもった医療を提供し、地域住民の支えとなる病院』を目指します。

③診療科（16診療科）
内科、消化器科、循環器科、小児科、外科、整形外科、形成外科、脳神経外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、放射線科、麻酔科、リハビリテーション科

④特　色
救急医療を中心とする急性期病院(病状発症後間もない疾患治療を行う医療機関)として活動し、地域の診療所・病院と役割分担・連携を図りながら、地域全体の医療水準の向上に努める。

- 24時間の救急医療(入院を必要とする重症救急)
- 24時間体制による脳卒中に代表される脳血管疾患を治療
- 24時間体制による急性心筋梗塞などの循環器疾患を治療
- 外来化学療法をはじめ放射線治療設備を備え、通院でのがん治療
- 周産期医療(出産など※)の実施
- 人間ドック

Ⅰ 三田市民病院の現状について
1. 三田市民病院の概要

⑤沿革

昭和24年12月	三田町立診療所として発足（内科、外科、耳鼻いんこう科、放射線科　病床数8床）
25年12月	町立三田病院となる（小児科、産婦人科、眼科を新設、病床数20床）
33年 7月	三田市民病院と改称（市制施行）
39年 5月	第1期工事完成（外科）病床数51床
41年 8月	第2期工事完成（増築）病床数73床
46年 6月	第3期工事完成（増築）病床数141床（リハビリテーション施設整備）
平成 7年 5月	新市民病院オープン　病床数250床、13診療科
7年 6月	救急医療機関告示認定
7年11月	日帰り人間ドック開始
8年 4月	病床数300床
9年 4月	医療福祉建築賞受賞
9年10月	財団法人日本医療機能評価機構※　一般病院種別B認定（Ver.1）
10年 7月	消化器科、循環器科を新設し15診療科になる
11年 7月	時間外小児救急病院間連携（2次救急）開始
13年 1月	クリニカル・パス導入※
14年10月	（財）日本医療機能評価機構　一般病院の認定更新(Ver.4)
16年 6月	増築棟完成（救急処置室、内視鏡検査室、CT室拡充、外来化学療法室新設、人工透析室移設）
16年10月	脳神経外科　脳卒中センター開設（24時間対応）
16年11月	3階救急重症病棟開設、血管造影装置更新と心臓カテーテル専用機設置、地域医療連携室開設
18年 4月	医療安全管理室開設
18年 7月	形成外科を新設し16診療科になる

Ⅰ 三田市民病院の現状について
2. 公立病院をめぐる制度環境 ①全体概況

公立病院を巡る環境が厳しさを増す中、国の基本方針として「公立病院改革ガイドライン」が策定された。

公立病院を取り巻く経営環境の変化

医療制度環境の悪化
- 厳しい保険財政
- 診療報酬※引き下げ圧力
- 病院の病床数削減方針
- 慢性的な医師・看護師不足

公立病院を取り巻く環境変化
- 自治体財政の悪化
- 自治体病院の7割が赤字
- 市町村合併による病院整理の必要性

国の基本方針

自治体財政健全化法の制定（2007年6月）

病院事業は、自治体財政健全化の観点からも、一層の健全運営を求められる。

経済財政改革の基本方針（2007年6月）

自治体にガイドラインを示し、経営指標に関する数値目標を設定した改革プランの策定を促す。

公立病院改革ガイドラインの策定（2007年12月）

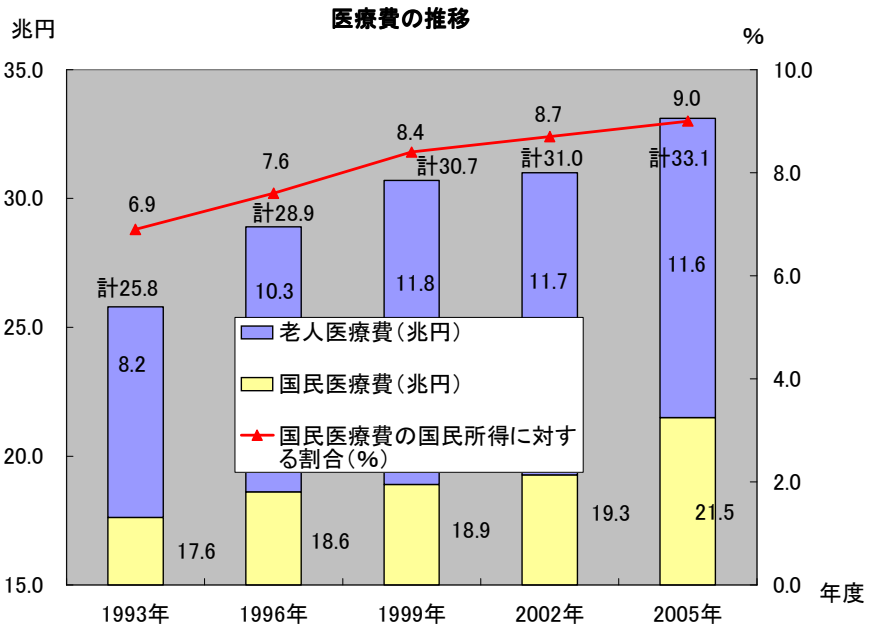
注）保険医療財政・診療報酬動向については次項参照
公立病院改革ガイドラインについては次々項参照

Ⅰ 三田市民病院の現状について
2. 公立病院をめぐる制度環境　②保険医療財政と診療報酬改定の推移

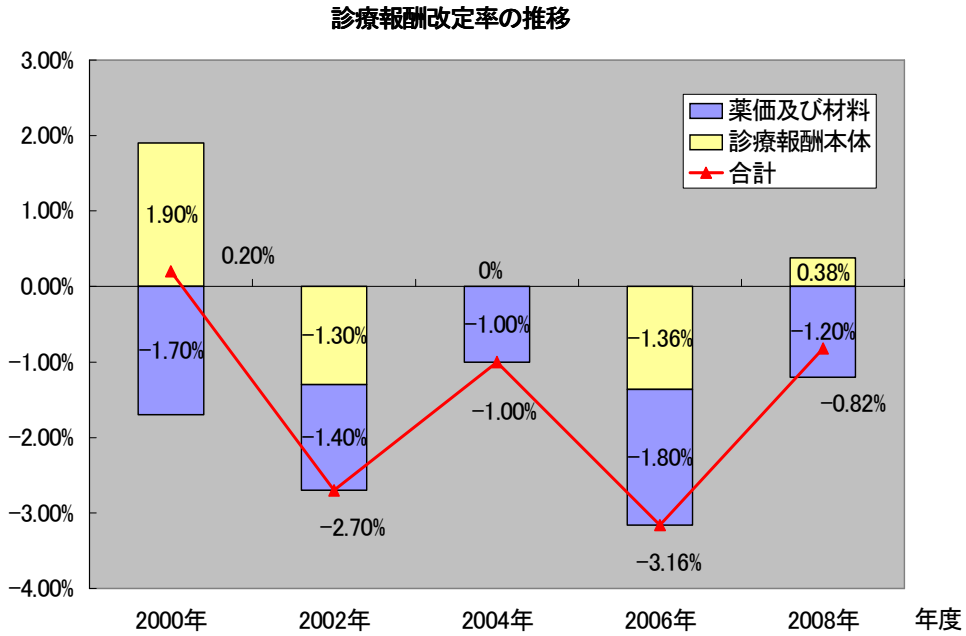
国の保険医療財政と診療報酬改定の推移

ア）　高齢化や疾病構造の変化を背景に国全体の医療費は増加傾向にある。国民医療費と老人医療費の合計は、1993年から2005年にかけて25.8兆円から33.1兆円まで28.3%増加している。また、国民所得に対する国民医療費の割合も6.9%から9.0%まで2.1ポイント上昇している。

イ）　これら医療費の増加を抑制するため、国は医療機関の収入源である診療報酬を低下させる傾向にある。2002年と2006年には、診療報酬本体部分がマイナス改定されるなど、医療機関の経営は厳しさを増している。



2008年厚生労働白書データに基づき作成



厚生労働省資料等に基づき作成

Ⅰ 三田市民病院の現状について
2. 公立病院をめぐる制度環境　③公立病院改革ガイドライン

地方公共団体は、平成20 年度内に公立病院改革プランを策定
（経営効率化は3 年、再編・ネットワーク化、経営形態見直しは5 年程度を標準）

公立病院改革プランのポイント

①経営効率化
- 経営指標に係る数値目標を設定（省略）
  - ア）財務の改善関係（経常収支比率、職員給与費比率、病床利用率など）
  - イ）公立病院として提供すべき医療機能の確保関係 など
- 一般会計から繰出金後※、「経常黒字」が達成される水準を目途
- 病床利用率が過去3 年連続して70％未満の病院は病床数等を抜本的見直し

②再編・ネットワーク化
- 二次医療圏※等の単位で経営主体統合を推進
- 医師派遣拠点機能整備の推進。病院間の機能重複を避け、統合・再編含め検討

③経営形態の見直し
- 地方公営企業法の全部適用※、地方独立行政法人※、指定管理者制度※、民間譲渡の選択
- 人事・予算等に係る実質的権限、結果への評価・責任を経営責任者に一体化
- 診療所化や老健施設、高齢者住宅事業等への転換なども含め、幅広く見直し

2008年　総務省ホームページに基づき作成

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ①三田市民病院の属する二次医療圏の概要

1. 平成20年兵庫県保健医療計画での位置づけ

ア） 三田市は阪神北二次医療圏に所属

イ） 小児・周産期医療は神戸市と一体で医療圏を構成（後記）

ウ） 脳疾患・心疾患等も対応機能に応じて医療圏を構成（後記）

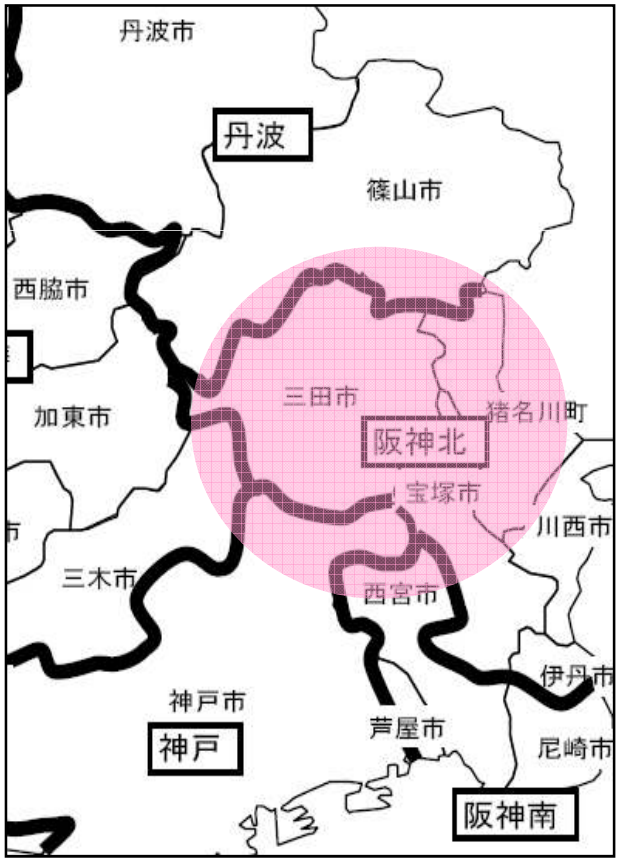
2. 阪神北二次医療圏の概況

構成市町　：　三田市、伊丹市、宝塚市、川西市、
　　猪名川町（4市1町）

圏域面積　：　481k㎡

人口数　　：　718千人（平成19年10月現在）

三田市と阪神北二次医療圏
（平成20年　兵庫県保健医療計画）



高齢化比率　（平成20年　兵庫県保健医療計画）

地域	高齢化比率
三田市	13.9%
阪神北圏域	17.8%
兵庫県	19.8%
全国	20.1%

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ②阪神北二次医療圏の医療需要動向

阪神北医療圏の疾病・入院患者動向

ア） 推計患者数は、「精神及び行動の障害」、「循環器系疾患」、「新生物」の順に多い。

イ） 推計患者数の61.6%しか圏内に入院しておらず、約4割が域外へと流出している。域外への流出が多いのは、「新生物」（域内入院比率42.3%）、「精神及び行動の障害」（同48.5%）などである。

ウ） 死因別死亡割合では、悪性新生物（35%）が最多であり、心疾患（15%）、脳血管疾患（9%）と続いている。

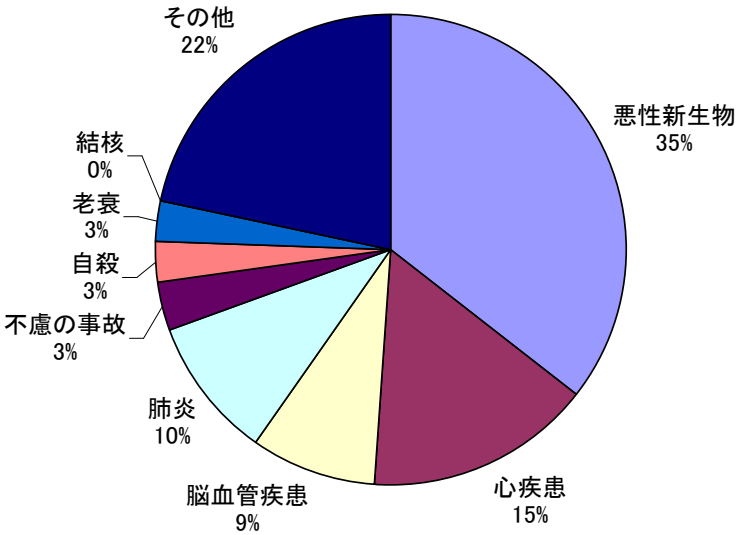
エ） なお、三田市が隣接する丹波医療圏も約3割が域外へと流出している。地理的・歴史的経緯から、三田市への流入も多いと推測される。

疾病分類別推計入院患者数

医療圏別患者数等 ＼ 疾病分類（ICD10）	阪神北二次医療圏			丹波二次医療圏（参考）		
	患者数（人）	圏域内入院患者数（人）	圏域内の入院割合（%）	患者数（人）	圏域内入院患者数（人）	圏域内の入院割合（%）
	a	b	c=b/a	d	e	f=e/d
循環器系疾患（脳血管・心筋梗塞等）	1,261	848	67.2%	315	249	79.0%
精神及び行動の障害	1,201	582	48.5%	348	191	54.9%
新生物（がん等）	773	327	42.3%	114	78	68.4%
損傷、中毒、外因の影響	578	437	75.6%	124	109	87.9%
神経系疾患	372	245	65.9%	92	43	46.7%
消化器疾患	298	225	75.5%	74	64	86.5%
筋骨格系及び結合組織の疾患	276	170	61.6%	62	51	82.3%
呼吸器系疾患	269	227	84.4%	73	64	87.7%
内分泌、栄養及び代謝疾患（糖尿病等）	217	161	74.2%	27	17	63.0%
その他	716	448	62.6%	126	96	76.2%
合計	5,961	3,670	61.6%	1,355	962	71.0%

本項データの出処（全て） 平成20年 兵庫県保健医療計画

死因別死亡割合



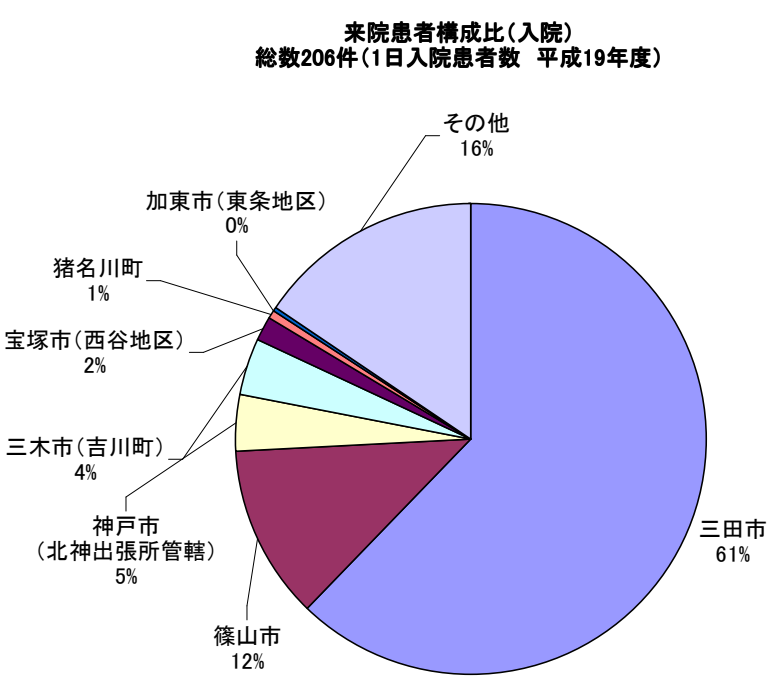
Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ③三田市民病院の診療圏と来院患者動向

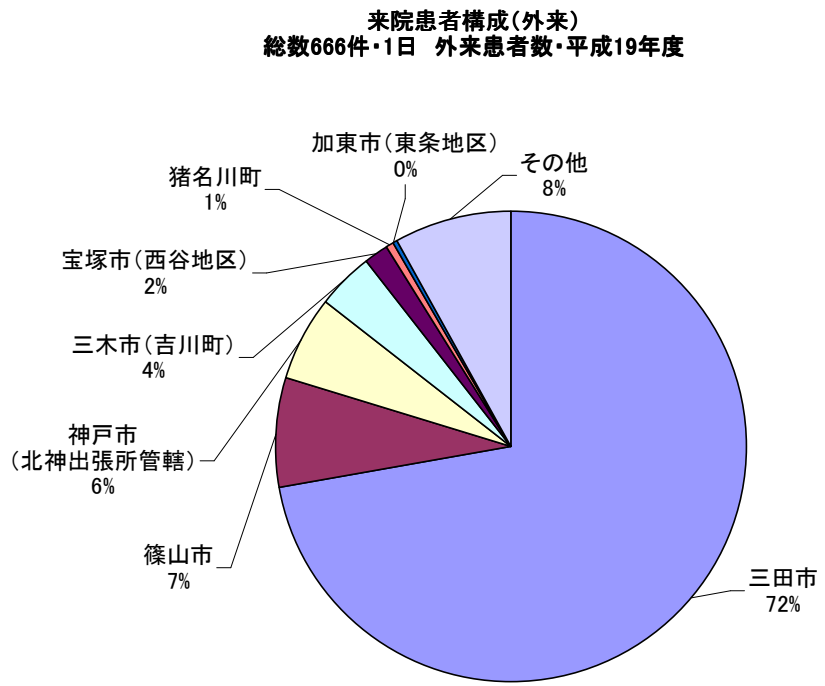
三田市民病院の診療圏

三田市、篠山市、猪名川町、宝塚市（西谷地区）、神戸市（北神出張所管内）、
三木市（吉川町）、加東市（東条地区）

診療圏人口は約293千人

市民病院の来院患者に占める同地区患者の割合 ： 入院84%、外来92%





出処：平成19年度 三田市民病院レセプトデータより作成

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ④診療圏の将来人口推計

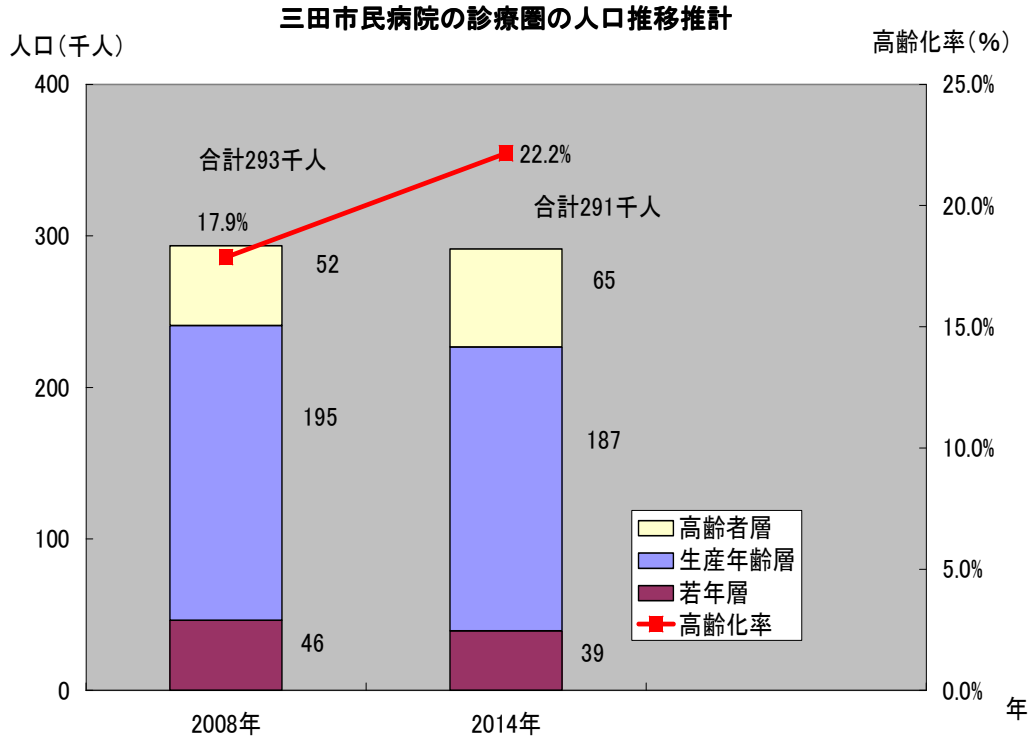
三田市民病院の診療圏の将来人口動向

ア） 少子高齢化の進展により診療圏人口は293千人（2008年）から291千人（2014年）まで減少すると推計される。

イ） 高齢化率も17.9%から22.2%まで上昇。

ウ） 三田市単体の場合、人口はほぼ横ばい、高齢化率は13.3%から20.0%への上昇と推計されるため、診療圏全体の方が少子高齢化が急速であると言える。

データ出処：三田市人口は「三田市介護保険事業計画」。他市人口は、兵庫県「人口減少社会の展望研究報告書」に基づいて推計を行っている。



出処：各市町人口データに基づいて推計

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑤診療圏の将来疾患需要

三田市民病院 診療圏全体の将来疾患需要予測

少子高齢化に伴い、1日入院患者数は2,906人(2008年)→3,268人(2014年)まで12.5%の増加見込み。
疾患毎に増加率の高低があるため、疾患需要動向に併せた診療体制構築が望まれる。

	2008年	2014年	増加数	増加率
疾患名(傷病大分類)	a	b	c=b−a	d=c/a
感染症及び寄生虫症	59	65	6	9.9%
新生物 (がん等)	342	385	43	12.6%
血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	12	13	2	14.5%
内分泌, 栄養及び代謝疾患 (糖尿病等)	79	90	11	14.3%
精神及び行動の障害	558	598	40	7.1%
神経系の疾患	171	194	23	13.4%
眼及び付属器の疾患	36	42	5	14.5%
耳及び乳様突起の疾患	7	7	0	3.2%
循環器系の疾患 (心疾患、循環器疾患等)	584	693	109	18.7%
呼吸器系の疾患	162	184	22	13.7%
消化器系の疾患	159	180	20	12.7%
皮膚及び皮下組織の疾患	24	28	4	14.7%
筋骨格系及び結合組織の疾患	144	165	21	14.6%
尿路性器系の疾患	99	113	14	14.0%
妊娠, 分娩及び産じょく	39	37	−1	−3.6%
周産期に発生した病態	28	23	−4	−15.3%
先天奇形, 変形及び染色体異常	19	17	−2	−10.1%
症状, 徴候及び異常臨床所見・検査所見で他に分類されないもの	60	69	9	15.0%
損傷, 中毒及びその他の外因の影響	287	326	39	13.7%
健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	36	37	1	1.8%
合計	2,906	3,268	362	12.5%

ア)増加傾向の疾患
増加率では、循環器、皮膚、筋骨格系、眼の疾患。
増加数では、循環器、新生物、精神、神経損傷等。

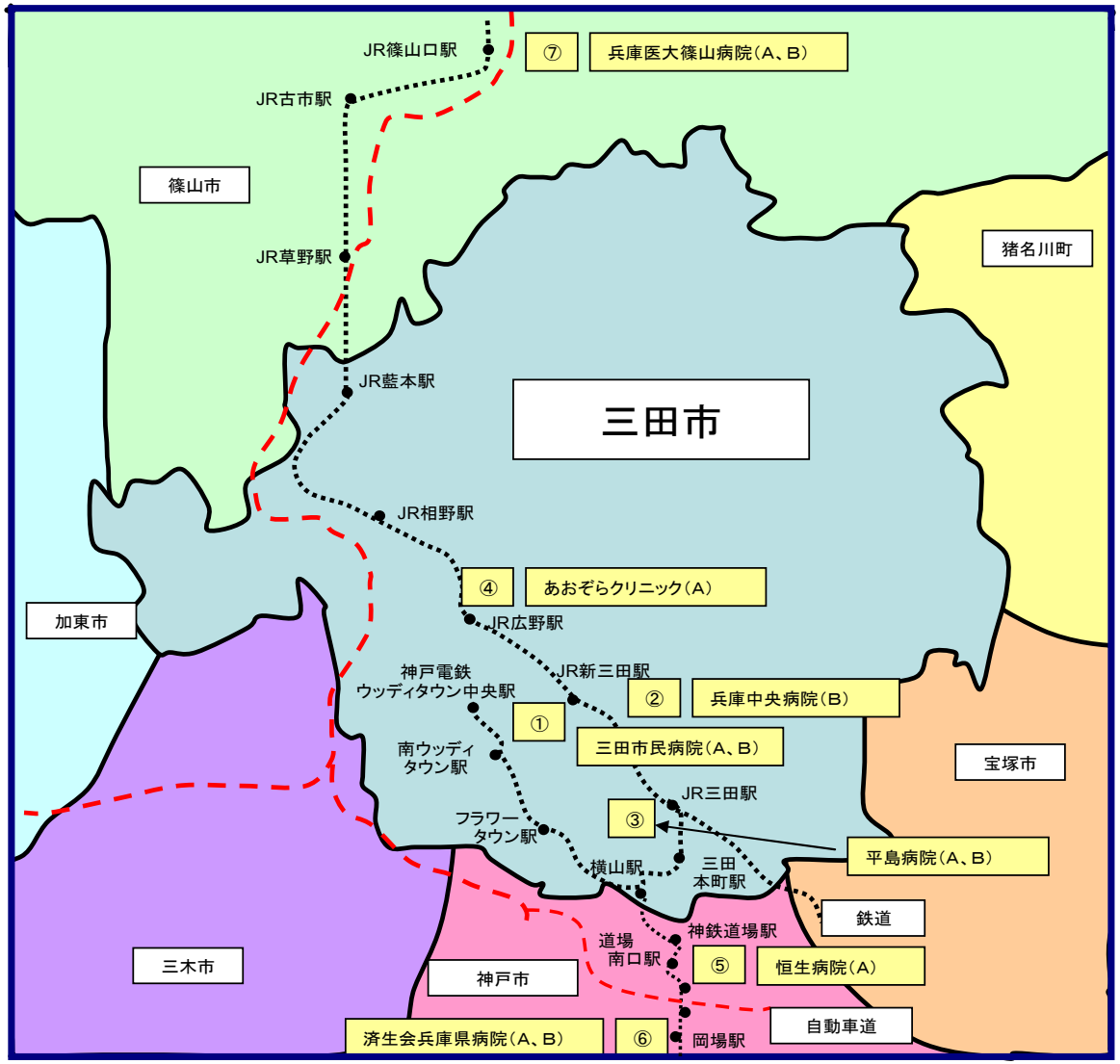
イ)減少・微増の疾患
周産期、先天奇形、妊娠、耳

注)三田市単独での疾患需要増加率は24.3%増と見込まれており、診療圏全体の増加率よりも高い。これは、三田市では従来低かった高齢化率が急速に高まることが要因である。

増加数・増加率の高い疾患
増加数・増加率が低い(マイナス)の疾患

疾患別・年齢階級別受療率(平成17年患者調査・厚生労働省)と年齢階級別人口推計(前項)を元に推計。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑥診療圏の主要医療機関状況



診療圏内の主要医療機関
救急受入可能医療機関 ： 6件
一般病床100床以上の医療機関：5件
（いずれも三田市民病院を含む）

診療圏内の主要医療機関

医療機関名	救急受入	一般病床100床以上
	A	B
① 三田市民病院	●	●
② 兵庫中央病院		●
③ 平島病院	●	●
④ あおぞらクリニック	●	
⑤ 恒生病院	●	
⑥ 済生会兵庫県病院	●	●
⑦ 兵庫医科大学篠山病院	●	●

注）標榜診療科等の情報については次項参照

I 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑥診療圏の主要医療機関状況

＜三田市並びに近郊医療機関の状況＞

・9つの病院と2つの有床診療所がある。
・二次救急対応の医療機関は3件（三田市民病院、平島病院、あおぞらクリニック）
・病院で三田市民病院のみが標榜している診療科：形成外科、脳神経外科、産婦人科、耳鼻咽喉科、麻酔科
・総合病院（一般病床200床以上）：三田市民病院（300床）、兵庫中央病院（426床）、済生会兵庫県病院（279床）

a)三田市内の入院可能施設

		地区	施設区分		病床区分・病床数					二次救急	標榜診療科																							
番号	医療機関名		病院	診療所	一般	療養	精神	結核	合計		内	消化	胃腸	循環	小児	外	呼・呼外	肛門	整形	リウマチ	形成	脳外	神経・神内	皮	泌	産婦	眼	耳鼻	リハ	放射	麻酔	精神	心内	歯科口腔
1	三田市民病院	ウッディ	●		300				300	●	●	●		●	●	●			●		●	●		●	●	●	●	●	●	●	●			
2	兵庫中央病院	三輪	●		426			148	574		●					●	●		●				●						●	●				
3	平島病院	三田	●		108	102			210	●	●	●	●	●		●	●	●	●					●	●		●		●	●				
4	三田温泉病院	本庄	●			180			180		●																		●					
5	三田高原病院	本庄	●			360			360		●																		●					
6	宝塚三田病院	三田	●				681		681														●									●		
7	さくら療育園	本庄	●				300		300						●																			
8	津田病院	本庄	●				200		200														●									●		
9	あいの病院	本庄	●				145		145		●												●									●		
10	あおぞらクリニック	広野		●	19				19	●			●			●		●																
11	大坪胃腸科外科	三田		●	18				18				●			●	●	●											●					

b)三田市近郊の主な病院

		地区	施設区分		病床区分・病床数					二次救急	標榜診療科																							
番号	医療機関名		病院	診療所	一般	療養	精神	結核	合計		内	消化	胃腸	循環	小児	外	呼・外	肛門	整形	リウマチ	形成	脳外	神経・神内	皮	泌	産婦	眼	耳鼻	リハ	放射	麻酔	精神	心内	歯科口腔
1	済生会兵庫県病院	神戸市北区	●		279				279	●	●				●	●			●			●		●	●	●	●	●		●				●
2	恒生病院	神戸市北区	●		59				59	●	●					●			●	●		●	●						●	●				
3	岡本病院	篠山市	●		94	92			186		●				●	●			●			●		●	●		●	●	●	●		●	●	
4	兵庫医科大学篠山病院	篠山市	●		150	50			200	●	●	●		●	●	●			●	●		●	●	●	●	●	●	●	●	●	●	●		

出処：三田市医師会ホームページ、独立行政法人福祉医療機構ホームページ等。平成20年8月時データに基づく。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 全体の特徴

＜三田市民病院の役割 その1 全体の特徴＞

- 三田市民病院は救急・急性期分野※で地域医療に大きな貢献を果たしている。
- 脳血管疾患・急性心筋梗塞疾患では三田市民病院が二次医療圏全体の基幹的役割を担っている。
- がん医療については、専門的ながん診療の機能を有する医療機関として位置づけられている。
- 糖尿病については、急性増悪時治療を担う医療機関として位置づけられている。
- 小児・周産期医療は三田市域全体で医療資源が乏しく、市民病院の体制整備にも限界がある。
- これらの強みを活かして弱みを補完するような連携・ネットワーク化が今後の課題である。

救急等の分野別の医療圏と市民病院の役割

分野	二次医療・広域圏域	三田市民病院の役割
救急	阪神北	圏域内で病院群輪番制※
脳疾患	阪神北	急性期の基幹的病院
急性心筋梗塞	阪神北	同上
がん	阪神北	専門的ながん診療の機能を有する医療機関
糖尿病	阪神北	糖尿病の急性増悪時治療を担う医療機関
小児	神戸・三田	神戸市北区の3病院と輪番制
周産期	神戸・三田	神戸市の病院と連携

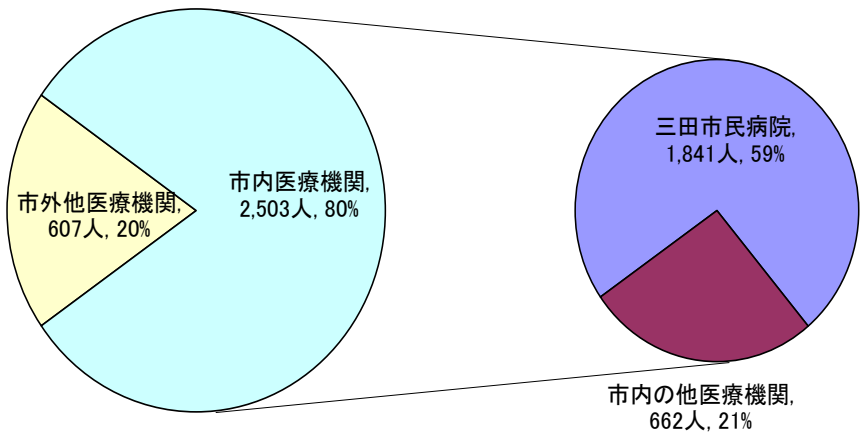
出処：平成20年 兵庫県保健医療計画

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 救急医療

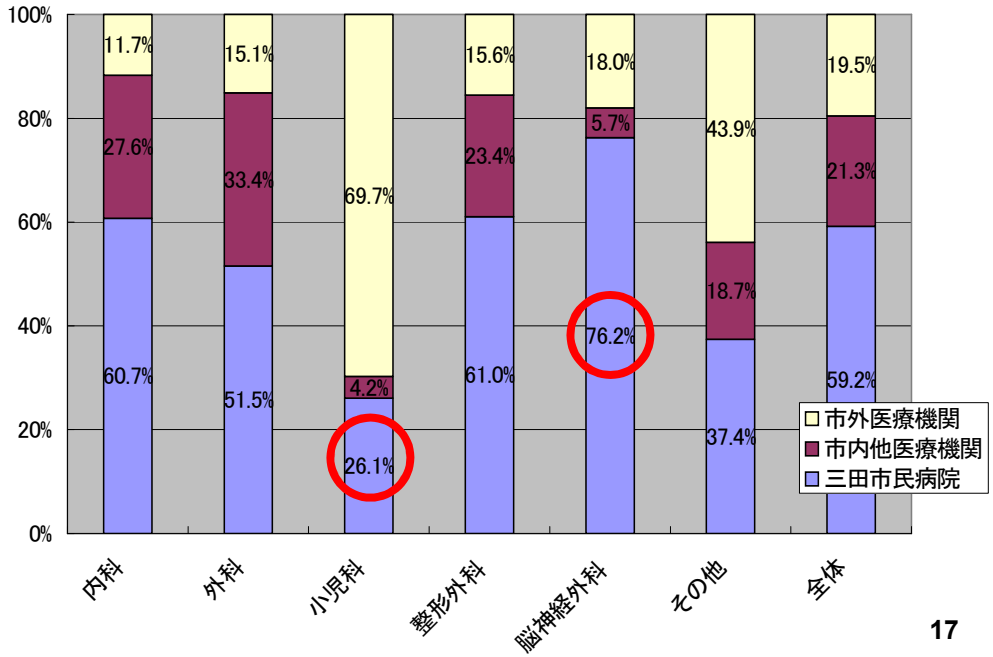
＜三田市民病院の役割 その2 救急医療＞

- 三田市民の救急搬送人員は8割が市内に、2割が市外へと搬送される。市民病院は全体の6割を取り扱っており、三田市救急の基幹的役割を担っている。
- 市民病院の時間外救急受付患者のうち入院へと至る比率は15%程度（平成17～19年平均で、時間外受付8,839件中、入院に至った件数は1,338件）。入院に至らない患者の多くは、当院以外でも対応可能と推測される。
- 三田市においては休日夜間急患センターが無く、とりわけ市民病院が救急医療の多くを担っている。

三田市消防局の救急搬送人員数（平成17～19年・3ヵ年平均）



三田市民病院の救急搬送人員シェア（診療科別）（平成17～19年暦年平均）



出処：平成17～20年 三田市消防本部（両グラフ共）

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 救急医療(続)

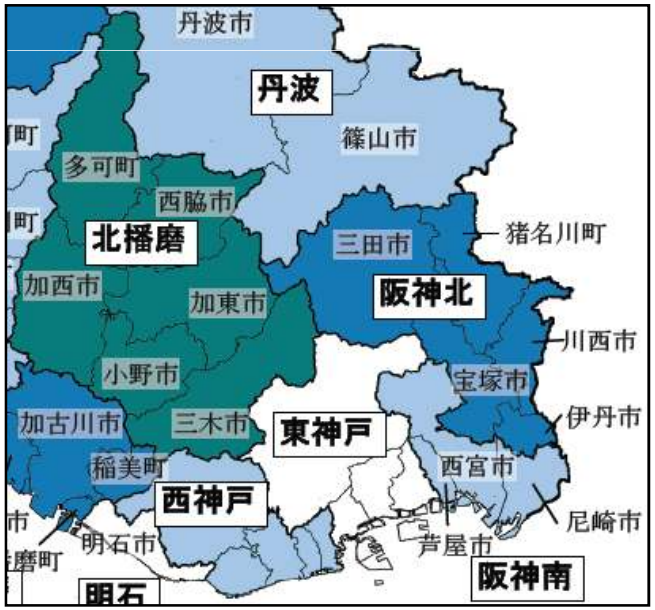
＜三田市民病院の役割 その2 救急医療(続)＞

・三田市の1次救急には休日夜間急患センターが存在せず、在宅当番医制で担われている。
　周辺市域の三木市、加東市・小野市にも休日夜間急患センターが存在していない。
・2次救急は阪神北地域輪番制で、3次救急は阪神圏域の救命救急センターで運営されている。

三田市周辺市域の救急医療体制整備状況 (平成20年兵庫県保健医療計画)

1次救急(初期)			2次(重症)		3次(重篤)	
地区名	休日夜間急患センター	在宅当番医制	地域名	病院群輪番制	圏域名	救命救急センター
三田市		○	阪神北	◎	阪神	神戸市立医療センター 中央市民病院 兵庫県災害医療センター 兵庫医科大学病院
宝塚市	○					
川西市・川辺郡	○					
伊丹市	○	◎				
尼崎市	◎	◎	阪神南	◎		
西宮市	◎	◎				
芦屋市	○	◎				
神戸市	◎(2ヵ所)	○(各区)	東神戸	◎	神戸	
			西神戸	◎		
篠山市	○		丹波	◎	丹波	県立柏原病院
丹波市	○					
三木市		○	北播磨	◎	播磨	県立姫路循環器病センター
加東市・小野市		○				
加西市		○				
西脇市・多可郡	○					

三田市と阪神北救急医療圏域(出処:同左)



□三田市周辺診療圏
○ 毎休日に救急体制を実施
◎ 毎休日・毎夜間に救急体制を実施

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 脳血管疾患

＜三田市民病院の役割 その3 脳血管疾患＞

ア） 三田市は、阪神北・丹波脳卒中圏域（兵庫県保健医療計画）に属する。

イ） 三田市民病院は上記圏域中で、脳卒中の急性期医療を担う医療機関としての全ての条件を満たしている唯一の病院である。（同条件を満たすのは、県下では他に17病院のみ）

参考）脳卒中の急性期医療を担う医療機関の選定条件と三田・周辺市域における該当医療機関（平成20年 兵庫県保健医療計画）

ⅰ）検査（X線検査、CT検査、MRI（拡散強調画像）、血管連続撮影）24 時間実施可能（オンコール体制含む）

ⅱ）血栓溶解療法（t-PA）※が24 時間当直体制で実施可能

ⅲ）外科的治療が必要な場合2 時間以内に治療開始（24 時間対応）

ⅳ）急性期リハビリテーションの実施

圏域名	構成市町	A	A'	B
		条件を全て満たしている病院	条件ⅱについてはオンコール体制※で24時間対応可能な病院	条件ⅰ～ⅲのうち、診療時間のみの対応となる項目がある病院
阪神北・丹波（注）	三田市、宝塚市、伊丹市、川西市、猪名川町、篠山市、丹波市	三田市民病院	宝塚市立病院 ベリタス病院	岡本病院
北播磨	三木市、加東市、西脇市、小野市、加西市、多可町	市立西脇病院		
神戸	神戸市	恒生病院、神戸市立医療センター中央市民病院、神戸大学医学部附属病院、吉田病院	神戸赤十字病院、新須磨病院、西神戸医療センター	神戸掖済会病院、神戸徳州会病院、社会保険神戸中央病院、神鋼病院

注） 丹波圏域は、県立柏原病院の機能回復を図り、一定の機能を確保する方向で調整予定。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 心疾患

＜三田市民病院の役割 その4 心疾患＞

ア） 三田市は、阪神北・急性心筋梗塞圏域（兵庫県保健医療計画）に属する。

イ） 三田市民病院は上記圏域中で、急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関の3病院の一つと位置づけられている。

参考）急性心筋梗塞の急性期医療を担う医療機関の選定条件と三田・周辺市域における該当医療機関（平成20年 兵庫県保健医療計画）

ⅰ）専門的検査（心臓カテーテル検査※・CT検査等）及び専門的診療（大動脈バルーンパンピング※・緊急ペーシング※等）の24 時間対応

ⅱ）経皮的冠動脈形成術（経皮的冠動脈ステント留置術※を含む）を年間200 症例以上実施

ⅲ）救急入院患者の受入実績がある

ⅳ）心臓血管外科に常勤医を配置

ⅴ）冠動脈バイパス術を実施

注1） 丹波圏域は、県立柏原病院の機能回復を図り、一定の機能を確保する方向で調整予定。

注2） オンコール体制にて24時間対応可能な病院

圏域名	構成市町	A	B	C	D
		条件を全て満たしている病院	条件ⅱが年間100症例以上200症例未満かつ、ⅰ、ⅲ、ⅳを満たす病院	条件ⅰ～ⅲを満たす病院	ⅱが年間100症例以上200症例未満、かつⅰ、ⅱを満たす病院
阪神北・丹波（注1）	三田市、宝塚市、伊丹市、川西市、猪名川町、篠山市、丹波市	東宝塚佐藤病院	宝塚市立病院	三田市民病院（注2）	
北播磨	三木市、加東市、西脇市、小野市、加西市、多可町	三木市民病院（注2）			市立加西病院
神戸	神戸市	神戸市立医療センター中央市民病院、神戸大学医学部附属病院、高橋病院（注2）	神戸赤十字病院、神戸労災病院（注2）、神戸徳州会病院（注2）		済生会兵庫県病院、川崎病院、神戸医療センター（注2）、顕修会すずらん病院（注2）、六甲アイランド病院（注2）

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 がん

各種がんの治療方法等 （平成20年 兵庫県保健医療計画から阪神北医療圏について5大がん分を抜粋）

がん種別 治療法等 ＼ 病院	乳がん					胃がん					大腸がん					肝がん						肺がん				
	手術	化学療法	放射線治療	集学的治療	セカンドオピニオン	手術	内視鏡的粘膜切除術	化学療法	集学的治療	セカンドオピニオン	手術	内視鏡的粘膜切除術	化学療法	集学的治療	セカンドオピニオン	手術	化学療法	穿刺療法※	冠動脈塞栓術※	集学的治療	セカンドオピニオン	手術	化学療法	放射線治療	集学的治療	セカンドオピニオン
三田市民病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○
兵庫中央病院	○	○				○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○		○	○	○			○
平島病院	○	○				○	○	○	○		○	○	○						○				○			
近畿中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
市立伊丹病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
安倉病院						○					○															
協立病院	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○			
こだま病院	○	○				○	○	○		○	○	○	○		○											
市立川西病院	○	○				○	○	○		○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○		○			
正愛病院	○	○				○		○			○		○													
宝塚市立病院	○	○		○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
宝塚第一病院	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○	○	○			
宝塚病院	○	○			○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○			○	○	○					○
東宝塚さとう病院	○	○				○	○	○	○		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○	○
べりタス病院	○	○				○	○	○			○	○	○			○	○					○	○			
みやそう病院						○		○			○	○	○				○	○								
祐生病院							○																			

＜三田市民病院の役割
その5 がん治療＞

① 集学的治療の実施
手術・放射線・化学療法を効果的に組み合わせた集学的治療を実施している。

② 保健医療計画での位置づけ
兵庫県保健医療計画では、阪神北医療圏域内では、専門的ながん診療機能を有する医療機関と位置づけられている。
（同圏内では、他に近畿中央病院、市立伊丹病院のみ）

③ 今後の課題
緩和ケアへの取り組み強化が今後の課題となっている。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 糖尿病

＜三田市民病院の役割 その6 糖尿病＞

・糖尿病の急性増悪時治療を担う医療機関として位置づけられている。
・今後の課題は、医師確保を図り、透析医療の体制を再構築することである。

糖尿病の「専門治療」及び「急性増悪時治療」に関する病院別医療機能
（平成20年 兵庫県保健医療計画から阪神北医療圏について抜粋）

市名	項目／病院	専門職種のチーム指導による糖尿病教育入院	糖尿病の診断や状況評価に必要な検査、専門的治療等の対応						糖尿病昏睡等、急性合併症の患者の治療	糖尿病の急性合併症の患者を24時間受入	専門医（常勤）		人工透析の実施
			①75gOGTT検査（※）	②運動療法の指導	③食事療法の指導	④低血糖時及びシックデイの対応	⑤妊娠糖尿病患者への対応	⑥Ⅰ型糖尿病への対応（※）			①糖尿病専門医（日本糖尿病学会）	②内分泌代謝専門医（日本内分泌学会）	
三田市	三田市民病院	○	○	○	○	○注	○	○	○	○	○注	○注	
三田市	兵庫中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○		○		
三田市	平島病院		○	○	○	○		○	○	○			○
川西市	協立病院	○	○	○	○	○		○	○	○			○
伊丹市	近畿中央病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
伊丹市	市立伊丹病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○		○
川西市	市立川西病院	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	
宝塚市	宝塚市立病院		○	○	○	○		○	○	○			○
宝塚市	宝塚第一病院	○	○	○	○	○		○	○	○	○		
宝塚市	宝塚病院		○	○	○	○			○	○	○		○
宝塚市	東宝塚さとう病院		○	○	○				○	○			○

注）兵庫県保健医療計画策定時には対応できなかったが、平成20年4月以降は対応可能になっている。

Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 小児救急

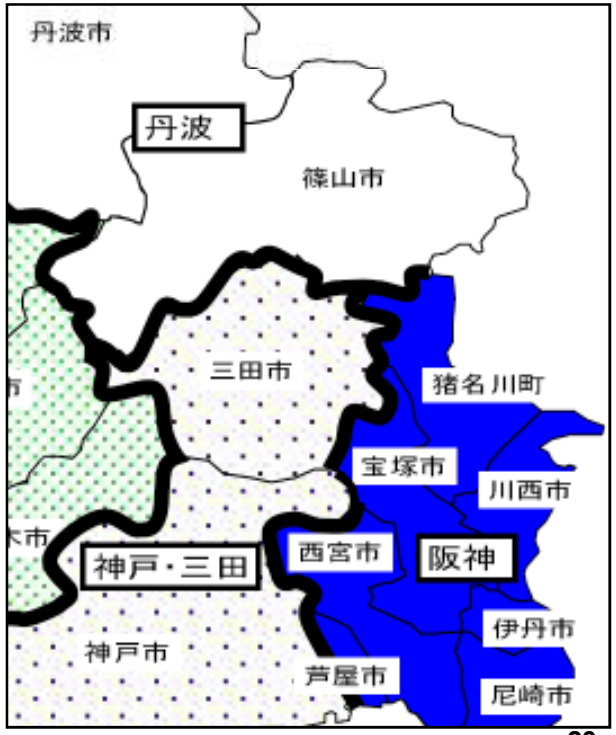
＜三田市民病院の役割 その7 小児救急＞

- 三田市の小児救急は、一次救急※を在宅医当番制で、二次救急を神戸市の病院との輪番制で対応している。
  （三田市民病院と済生会兵庫県病院、真星病院、社会保険神戸中央病院の4病院輪番制）
- 市内には休日夜間急患センターが無く、また常勤小児科医5名以上の基幹的病院が無い。
- 結果として、小児救急搬送患者の7割は三田市外へと搬送されている。
- 三田市に隣接する丹波・篠山地区にも地域小児医療センターが存在せず、神戸・三田圏域との連携により対応が図られている。
- 三田市民病院においては、小児科医定数3名のうち1名が欠員となっている。

小児救急医療の広域体制（平成20年 兵庫県保健医療計画）

市町村	一次救急	二次小児救急医療圏域	常勤小児科医5名以上	小児医療連携圏域	地域小児医療センター
三田市	在宅医当番制	三田		神戸・三田	神戸市中央市民病院 済生会兵庫県病院
神戸市	休日夜間急患センター（市内2ヵ所）	神戸	県立こども病院 神戸市民中央病院 神戸大学附属病院 済生会兵庫県病院 西神戸医療センター 六甲アイランド病院 バルモア病院		
篠山市	休日夜間急患センター	丹波		神戸・三田	当面は神戸・三田圏域等との連携で対応し、将来的に圏域内での小児医療センター機能の確保を図る。
丹波市	休日夜間急患センター				

三田市と小児医療連携圏域図（同左）



Ⅰ 三田市民病院の現状について
3. 診療圏における位置づけ ⑦市民病院の役割 周産期医療

＜三田市民病院の役割 その8 周産期医療＞

・三田市域では、平成19年度における救急搬送件数88件の全例が神戸圏域の医療機関に搬送されている。
県保健医療計画でも、「三田市域においては、地理的・歴史的条件により神戸圏域との連携を進める」と明記。
・隣接する丹波圏域では、地域周産期母子医療センターが存在せず、当面は神戸・三田圏域で対応。
・三田市民病院は三田市内における唯一の分娩可能な入院施設を持つ医療機関である。

周産期医療の広域体制（平成20年 兵庫県保健医療計画）

市町村	圏域名	地域周産期母子医療センター	総合周産期母子医療センター
三田市	神戸・三田	神戸市中央市民病院 神戸大学附属病院 済生会兵庫県病院	県立こども病院
神戸市			
篠山市	丹波	当面は神戸・三田圏域等との連携で対応し、将来的に圏域内での一定の機能の確保を図る。	
丹波市			

人口千人当たり出生数（平成17年）
（平成19年 三田の保健福祉）

	出生数（人）	人口（人）	人口千人当たり出生数
三田市	732	113,332	6.5
兵庫県	47,273	5,590,601	8.5
全国	1,062,530	127,767,994	8.3

Ⅰ 三田市民病院の現状について
4. 三田市民病院に関する市民アンケート ①今後の方針について

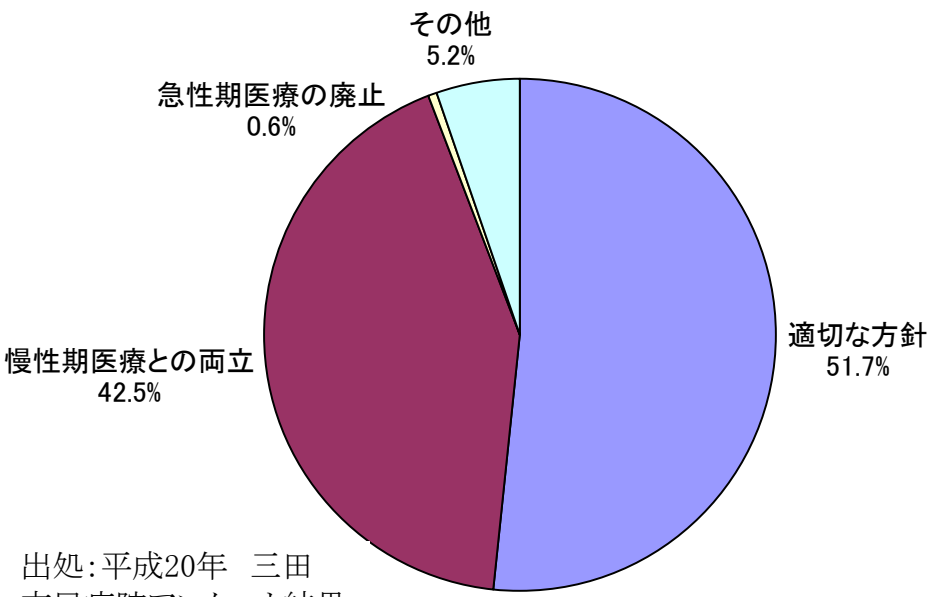
＜三田市民病院の医療機能について＞

① 急性期医療への賛否について「適切な方針」(51.7%)が過半数を占めたが、「慢性期医療との両立」(42.5%)にも意見が集まった。

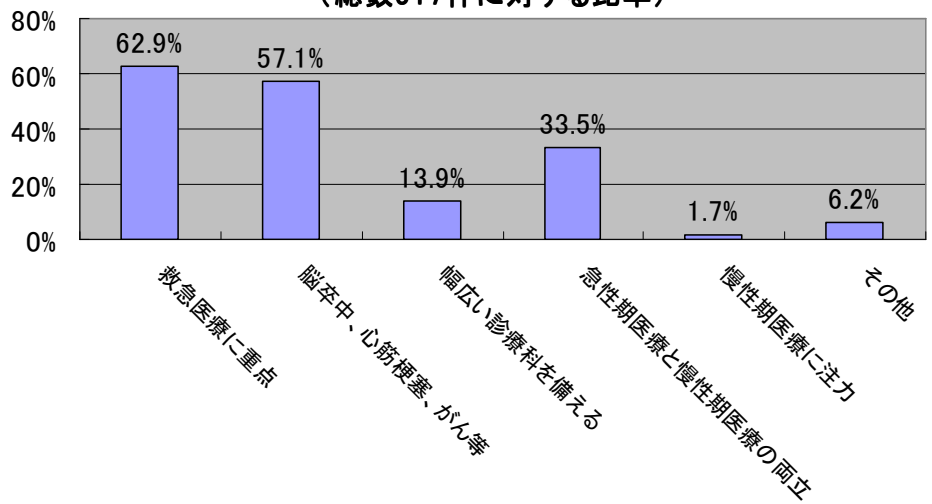
② 医療連携・役割分担の中で、市民病院に求める特色は「救急医療」(62.9%)、脳卒中・心筋梗塞・がん等(57.1%)が多かった。

③ 市民意見を踏まえて、急性期医療中心の方針を維持しつつ、慢性期医療機関との連携を模索するものとする。

問10 市民病院の急性期医療中心の方針について
（回答総数515件の構成比）



問11.他の医療機関との連携
（総数517件に対する比率）



出処：平成20年　三田市民病院アンケート結果

Ⅰ 三田市民病院の現状について
4. 三田市民病院に関する市民アンケート ②救急医療について

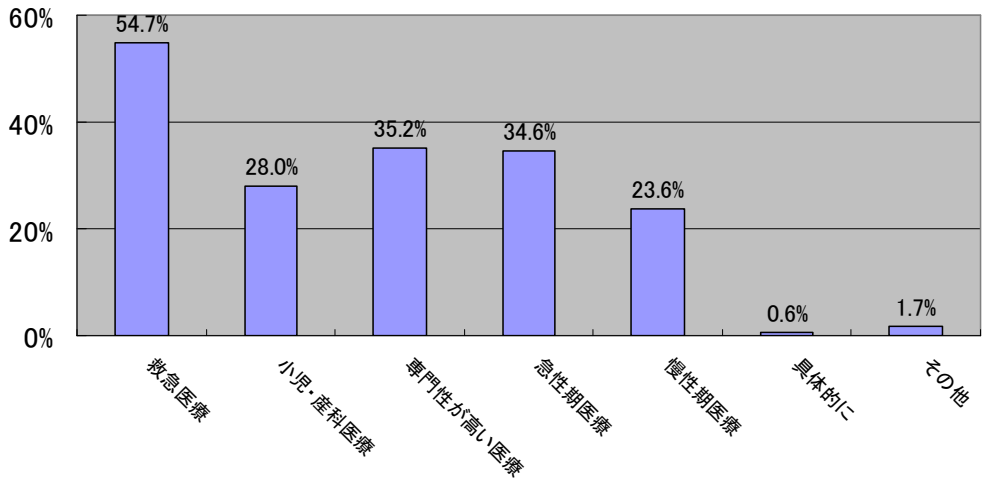
＜一次救急と二次救急医療の分担に関する市民意識＞

① 他医療機関と「連携」や「役割分担」を強化すべき分野では「救急医療」が多い（54.7%）。「市民病院が特色を持つべき医療」（前項の問11）も救急医療が多く（62.9%）、救急に関する市民要望の強さが確認された。

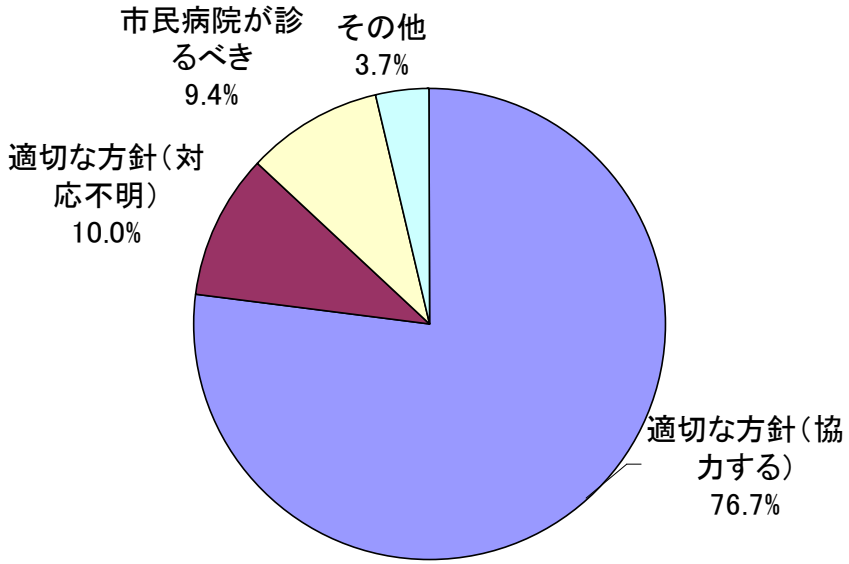
② 地域医療機関の診療時間内に「かかりつけ医」を利用する点については、「適切な方針（協力する）」が76.7%、「適切な方針（対応不明）」が10.0%となり、合計で86.7%もの賛同が得られている。

③ 市民病院の二次救急対応力を強化するためには、一次救急での地域医療機関との役割分担強化が望まれるが、その点についての市民理解も進みつつあると考えられる。

問16.「連携」「役割分担」の強化が望まれる診療内容
（回答総数517件に対する比率）



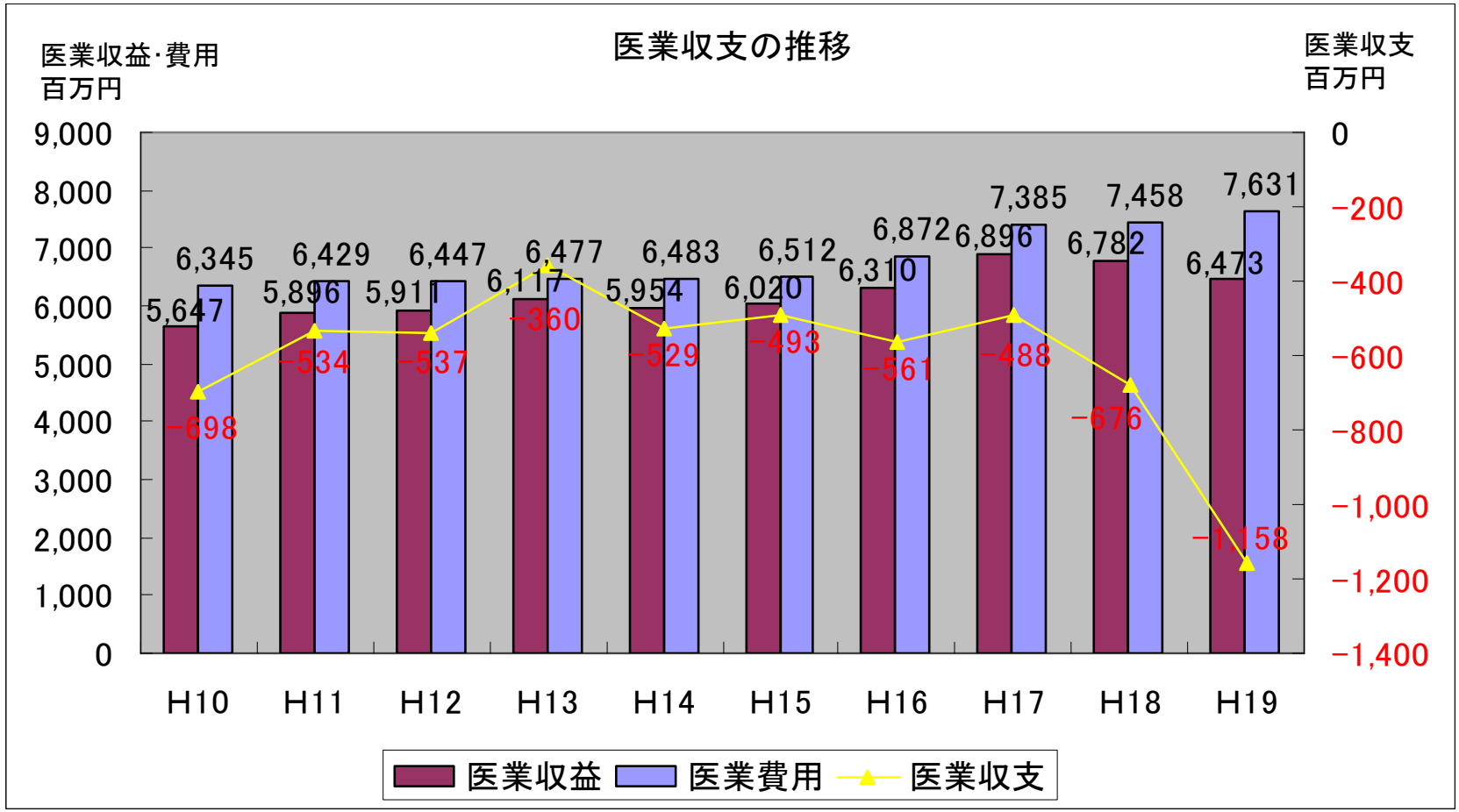
問9.症状が軽い方は「かかりつけ医」に診てもらうことについて
（回答総数511件の構成比）



出処：平成20年　三田市民病院アンケート結果

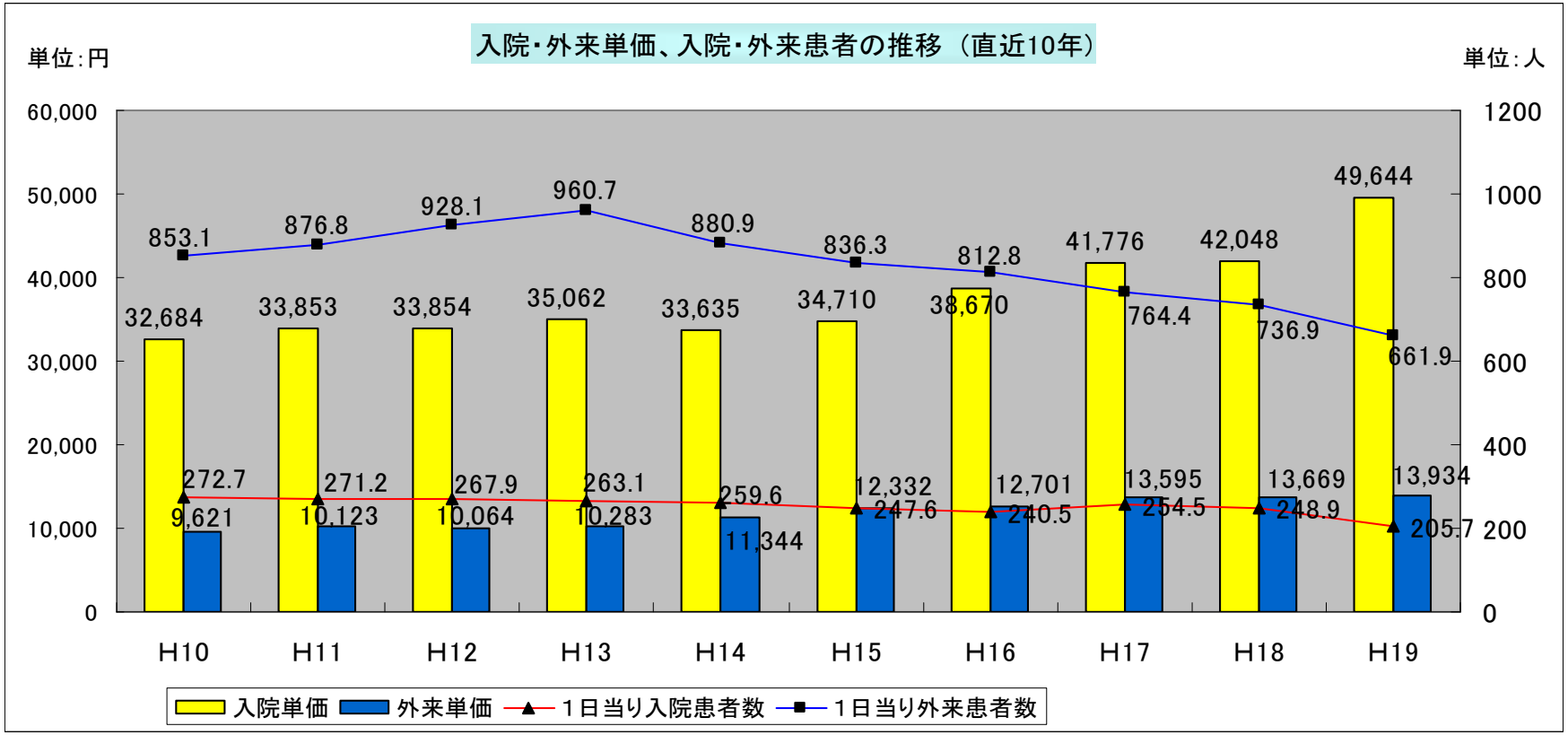
Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ①医業収支の推移

平成17年までは医業収益および医業費用の増減はほぼ連動していたため、その差額である医業収支額は一定の範囲内で増減していた。しかし、平成18年度よりその関係が崩れ、医業収益は減少し医業費用は増加したため、医業収支は大きく下落している。医師不足・看護師不足による影響が大きい。



Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ②単価、患者数の推移

単価(患者1人1日当たり収入)は入院・外来ともにほぼ一貫して上昇している。それに対して、患者数については、外来患者数は平成14年度より減少に転じている。入院患者数は平成18年度までは大きな変動はなかったが、平成19年度において医師数・看護師数の減少、それにともなう病棟閉鎖により大きく減少に転じている。



Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ③診療科別患者数

診療科別患者数

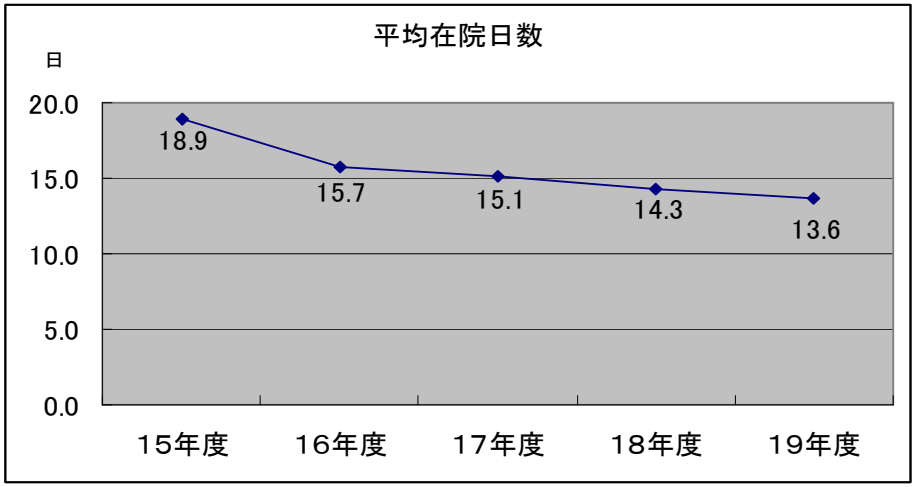
入院患者数については、平成18年までは大きな診療提供体制の変動もなく安定していたが、平成19年度は内科、小児科において医師数減少となり患者数も大きく減少している。また看護師不足による病棟閉鎖の影響も大きい。外来患者数についても、内科・小児科においては同じ理由により患者数が減少している。

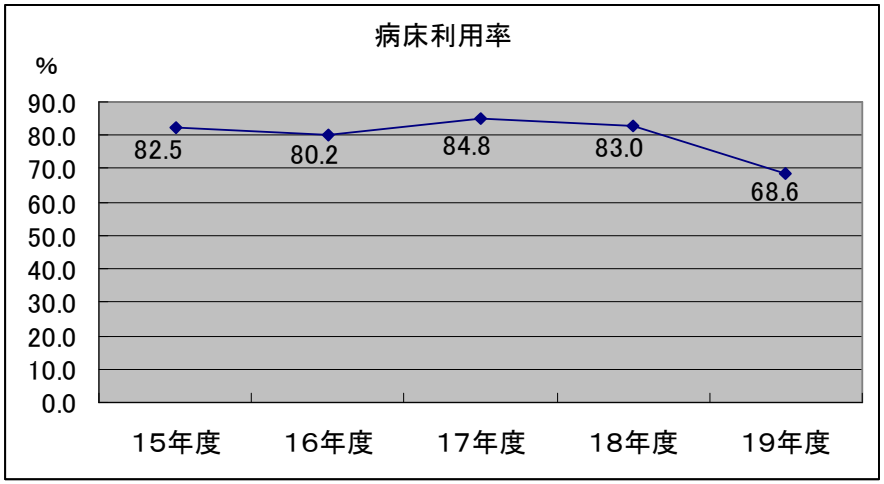
（単位：人）

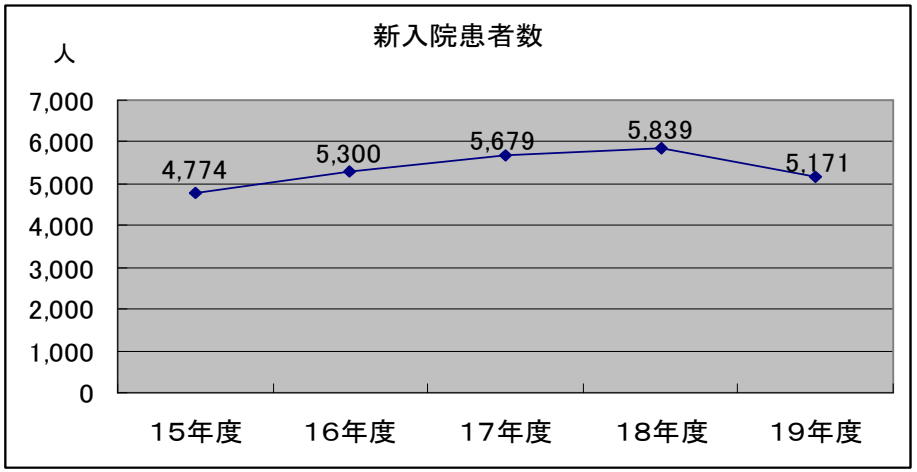
診療科	入院 15年度	入院 16年度	入院 17年度	入院 18年度	入院 19年度	入院 対前年度	外来 15年度	外来 16年度	外来 17年度	外来 18年度	外来 19年度	外来 対前年度
内科	42.5	36.6	37.2	26.1	7.3	△ 18.8	192.6	188.3	183.5	182.5	156.5	△ 26.0
消化器科	33.2	31.8	35.0	37.1	34.2	△ 2.9	51.8	46.0	40.0	37.7	33.0	△ 4.7
循環器科	15.4	20.6	20.0	24.3	32.8	8.5	33.3	29.6	26.3	23.2	19.9	△ 3.3
小児科	7.9	7.1	8.3	11.0	3.8	△ 7.2	48.3	38.9	35.9	40.1	24.9	△ 15.2
外科	34.8	30.0	29.1	25.9	24.6	△ 1.3	59.9	59.6	53.7	51.9	51.4	△ 0.5
整形外科	44.4	38.1	41.5	48.5	40.3	△ 8.2	111.6	104.5	95.7	90.4	76.4	△ 14.0
形成外科	－	－	－	0.5	1.4	0.9	－	－	－	3.4	7.7	4.3
脳神経外科	17.2	26.4	33.0	32.8	23.2	△ 9.6	24.9	29.0	34.2	35.1	34.3	△ 0.8
皮膚科	4.2	5.3	6.1	5.8	4.4	△ 1.4	77.7	81.9	78.3	78.6	77.3	△ 1.3
泌尿器科	14.0	15.1	16.0	11.8	12.1	0.3	55.3	53.5	51.4	48.8	50.5	1.7
産婦人科	21.8	16.5	14.3	14.3	13.2	△ 1.1	39.3	36.7	33.4	35.6	31.6	△ 4.0
眼科	4.3	4.7	4.4	4.3	3.6	△ 0.7	66.4	67.7	62.7	54.0	48.4	△ 5.6
耳鼻いんこう科	6.1	7.5	9.2	6.6	4.9	△ 1.7	40.2	38.7	40.7	37.9	33.5	△ 4.4
放射線科	2.0	0.9	0.4	0.2	0.0	△ 0.2	10.8	11.8	11.6	14.3	12.2	△ 2.1
麻酔科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	4.6	2.0	0.0	0.0	0.1	0.1
ﾘﾊﾋﾞﾘﾃｰｼｮﾝ科	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	23.6	24.5	17.0	4.3	4.1	△ 0.2
一日当り患者合計	247.6	240.5	254.5	248.9	205.7	△ 43.2	836.3	812.8	764.4	736.9	661.9	△ 75.0

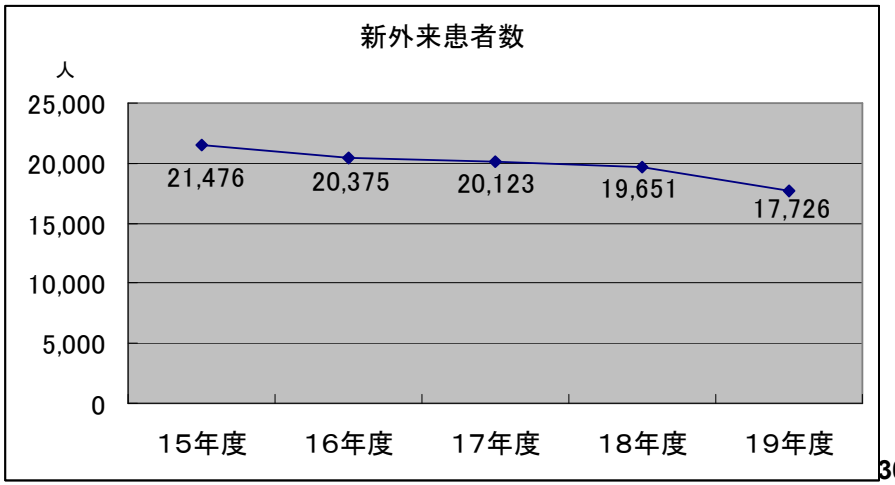
Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ④平均在院日数、病床利用率、新入院・外来患者数

平均在院日数は短縮するとともに、新入院患者数は平成18年度までは順調に増加したため、病床利用率は80%以上で安定した推移となっていた。しかし、医師数減少に見舞われた平成19年度は新入院患者数が減少に転じたため、病床利用率が一気に60%台まで下落した。新外来患者数は従来より減少傾向であるが、平成19年度は減少幅が大きくなっている。









Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況　⑤損益の状況

損益の状況

・入院収益

腎臓内科は医師の引きあげにより休止を余儀なくされ、収益減少となった。また小児科医も減員となったため収益の減少となった。また、看護師不足の影響から脳外科患者数が減少した。これに対し、循環器科はカテーテル治療患者の増加が収益増加に寄与した。全体としては82百万円の減少となった。

・外来収益

腎臓内科が医師の引きあげにより休止を余儀なくされたこと、小児科医も減員となったことが要因で、外来収益全体としては、208百万円の収益減少となった。

・医業費用

看護師減少にともない給与は減少となったが、嘱託医師の増加により報酬は増加し、給与費は若干の増加となった。また、外来患者数の減少により薬剤費は減少したが、カテーテル患者の増加により診療材料費が増加したため、材料費も増加している。経費も、委託費の増加等により若干の増加となった。この結果、総額で173百万円の増加となった。

・経常損益

医業収益の減少により、前年度との比較で経常収支比率4.5%、経常損益391百万円悪化し、平成19年度において経常収支比率86.7%、経常損益△1,116百万円となった。

損益計算書

単位：百万円

区分 ＼ 年度		18年度（実績）	19年度（実績）	増減
収入	1. 医業収益 a	6,782	6,473	−309
	(1) 料金収入	6,288	5,998	−290
	入院収益	3,820	3,738	−82
	外来収益	2,468	2,260	−208
	(2) その他	494	475	−19
	2. 医業外収益	703	773	70
	経常収益 (A)	7,485	7,246	−239
支出	1. 医業費用 b	7,458	7,631	173
	2. 医業外費用	752	731	−21
	経常費用 (B)	8,210	8,362	152
経常損益 (A)−(B) (C)		−725	−1,116	−391
特別損益	1. 特別利益 (D)	3	0	−3
	2. 特別損失 (E)	24	31	7
	特別損益 (D)−(E) (F)	−21	−31	−10
純損益 (C)＋(F)		−746	−1,147	−401
累積欠損金		5,854	7,001	1,147
経常収支比率 $\frac{(A)}{(B)}\times 100$		91.2%	86.7%	−4.5%
医業収支比率 $\frac{a}{b}\times 100$		90.9%	84.8%	−6.1%

Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ⑥比較分析

1. 分析の概要

三田市民病院と類似する以下の4病院を選定し比較分析を実施。

みやぎ県南中核病院、東京都日野市立病院、奈良県立三室病院、箕面市立病院

2. 高収益・高コスト

比較病院よりは収益・費用ともに高く、院外処方の影響を除くため外来薬剤収益・費用控除しても、同じ傾向であった。

3. 施設・設備への投資額が大きい

費用は支払利息が非常に高いが、支払利息は企業債利息であり、過去の政策決定により発生が避けられない費用である。

固定資産取得価額が最も大きく、減価償却費は建設年次が比較病院より古いことを勘案すれば高いと考えられる。

4. 人的資源は充実

人件費・委託費は比較病院よりも低い。これは、雇用形態を多様化しており、給与費・委託費等の人件費関連費用は低い傾向にある。その他経費に含まれる人件費関連費用を合わせてもなお低いレベルと考えられる。

実質職員数は比較病院の中で最も多く、人的資源は充実していると考えられる。

財務状況比較

（単位：千円）

項　　目	三田市民病院	比較4病院平均
	平成19年度	平成18年度
病床あたり償却資産簿価	60,041	56,034
㎡あたり償却資産簿価	786	590
損益計算書		
1. 総収益	7,246,375	6,212,546
（1）医業収益	6,472,516	5,716,651
（2）医業外収益	773,327	490,921
（3）特別利益	532	4,974
2. 総費用	8,393,582	6,915,855
（1）医業費用	7,631,049	6,546,365
ア. 職員給与費	2,764,659	2,874,545
イ. 材料費	2,546,340	1,636,643
ウ. 減価償却費	762,960	712,345
エ. 経費	1,524,434	1,300,976
オ. 研究研修費	17,372	18,153
カ. 資産減耗費	15,284	3,705
（2）医業外費用	731,224	364,544
うち企業債利息	502,180	182,539
（3）特別損失	31,309	4,945
3. 経常利益又は経常損失	−1,116,430	−703,337
損益計算書(外来薬剤収益費用控除後)		
1. 総収益	6,363,814	5,939,500
2. 総費用	7,511,021	6,642,809
3. 医業収益に対する費用比率(%)		
（1）職員給与費	49.5	52.1
（7）委託料	9.2	11.9
（8）医療材料費	29.8	23.9
うち薬品費	8.3	10.2
（参考）職員給与費＋委託料	58.7	64.1

Ⅰ 三田市民病院の現状について
5. 経営状況 ⑥比較分析

5. 材料費率は高い

材料費率が比較病院よりも高い。高額な診療材料を使用する循環器科においてカテーテルによる術式が増加したためである。

6. 入院患者1人1日当たり収入は高い

特に手術・処置料が高く、レベルの高い医療が提供されていると考えられる。
設備に対する投資額が比較病院よりも大きく、これらの設備を利用して高単価を実現していると考えられる。
材料費が高いのは、高価額の材料を使用する手術件数が増加したためである。

7. 収益は高い水準だが費用を賄えていない

比較病院中最も病床利用率が高かった平成18年度においても746百万円の経常損失となっている。
設備関係費用・医療材料費が大きく、高い収益単価とはいえども損失額が大きい。
施設基準を見ても他病院よりも高い水準であり、投資に見合ったより高単価・高回転を確保することが求められる。

財務状況比較

（単位：千円）

項　　目	三田市民病院	比較3病院平均
	平成19年度	平成19年度
1. 固定資産	12,730,976	12,459,085
（1）有形固定資産	12,727,676	12,458,596
うち		0
ア. 土地	3,680,992	1,257,105
イ. 償却資産	18,013,130	17,177,525
ウ. 減価償却累計額（△）	8,966,446	5,987,696
償却資産の償却後簿価	9,046,684	11,189,829
償却資産の償却割合	49.8%	34.9%

(注)奈良県立病院の貸借対照表は3病院合計であったため比較対象から除いている

項　　目	三田市民病院	比較4病院平均
	平成19年度	平成18年度
（1）患者1人1日当たり診療収入（円）		
ア. 入院	49,644	42,456
（ウ）処置・手術	18,996	12,817
イ. 外来	13,934	10,258
外来(投薬料除く)	8,441	8,645
11. 病床100床当たり職員数（人）		
（1）医師	18.3	17.7
（2）看護部門	88.9	71.4
（3）薬剤部門	4.4	4.0
（4）事務部門	6.9	8.3
（5）給食部門	8.8	1.7
（6）放射線部門	4.7	4.0
（7）臨床検査部門	6.3	4.9
（8）その他部門	5.5	5.8
（9）全職員	143.9	117.7